

平成 29 年度第 1 回二宮町総合教育会議 会議要旨

開催日時	平成 29 年 5 月 19 日 金曜日 13 時 30 分から 15 時 15 分まで
開催場所	二宮町役場 2 階 第一会議室
出席者	村田邦子町長、府川陽一教育長、吉田美佳子教育長職務代理、山内みどり教育委員、原道子教育委員、岡野敏彦教育委員
町部局	政策担当参事兼地域政策課長
事務局	教育部長、教育総務課長、生涯学習課長、図書館長、教育総務班長
その他	傍聴 2 人

※会議次第および資料は、別添ファイルのとおり

会議記録

(教育部長)

定刻となりました。ただいまから、平成 29 年度第 1 回二宮町総合教育会議を開催いたします。

開会にあたりまして、まず初めに、本会議の公開、傍聴についてお諮りさせていただきます。本会議は、平成27年4月1日に施行された、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 1 条の 4 に基づいて開催いたしました。この条文の中では、「総合教育会議は、公開する。」とあります。また、平成27年度第 1 回の総合教育会議において定めました「二宮町総合教育会議設置要綱」第 6 条においても「会議は、公開する。」とあります。

本日は、傍聴希望の方がいらっしゃいます。皆様、公開、傍聴を許可してよろしいでしょうか。

— 公開・傍聴について許可 —

(教育部長)

では、許可をいただきましたので、傍聴の方をご案内させていただきます。

— 傍聴者入室 —

(教育部長)

傍聴の方が全員入室されましたので、再開いたします。それでは、次第の 2、町長挨拶です。村田町長、お願いいたします。

(町長)

みなさん、こんにちは。今年度も3回の総合会議を開催し、教育長、教育委員の皆さんと会議を持ちたいと思います。町では、平成29年度予算に基づいた取組みを進めているところです。現在の状況や来年度以降のことも踏まえて、有意義な議論をしていきたいと思います。よろしく願いいたします。

(教育部長)

ありがとうございました。続きまして、次第の3、協議・調整事項に入りますが、本日は、「二宮町総合教育会議設置要綱」第6条に基づき、政策担当参事兼地域政策課長、生涯学習課長、生涯学習課図書館班図書館長の3名がオブザーバーとして出席いたしますので、この場を借りてご案内いたします。

それでは、ここからは、二宮町総合教育会議設置要綱の第4条に基づきまして、村田町長が議長になりますことから、会議の進行をお願いしたいと思います。

(町長)

それでは、進行させていただきますので、ご協力の程、よろしく願いいたします。では、協議・調整事項の(1)平成29年度総合教育会議のテーマ設定について、事務局より説明いたします。

－ (1) について、事務局より説明 －

(町長)

事務局より、説明がありました。今年度は、事務局から説明のあったテーマを中心に皆さんと協議していきたいと思いますのでよろしくお願いします。ひきつづき、協議・調整事項の(2)町図書館、読書指導について、です。今回のテーマですが、ラディアンにある図書館、学校図書館、そして読書指導、そういったことを話していきたいと思います。今の図書館は開館から16年が経過しました。図書館は、私にとっても思い出がある施設です。二宮町に転入してきた頃は、図書館は今の教育委員会のある建物でした。今の図書館は、計画段階から町民のパワーが入り、町民の期待や思いが詰まって建設された施設だと思います。現在も、町民や多くのサポーター、職員が連携して運営している施設です。一方、図書館というのは、多くの自治体にとって、人件費、資料費が大きく財政的に負担になりがちで、今後どのように展開していくのが課題となっています。図書館を中心としたまちづくり、というのも一つのテーマとなることから、今日、皆さんから意見をいただくとともに、町民の意見を募っていきたいと考えています。図書館については、図書館の良さをアピールして、今まで利用したことのない町民に来館していただき、図書館利用者の裾野を広げられるよう今後の取組みについて考えているところです

(吉田委員)

私は図書館が大好きで、子どもが小さい頃は足しげく通っていました。町に転入したころからラディアンがあり、子育ての中で大いに役立ちました。子どもの

本の充実、子ども向け行事の充実が印象的です。また、図書館に集まる子育て仲間とのコミュニケーションも嬉しかったです。機会があればいつでも行けるよう図書館カードをいつも持ち歩いています。定住促進を進めていく中でも、図書館もこれからは勝負だと思います。先日、大和市の施設を見る機会あり、素晴らしい施設だと思いました。館内に入ると、興味を引くような様々な図書が並んでいて、また、キッズスペースなどもありました。施設はもちろん違いますが、今の資料やサービスを活かして、本の並べ方の変更や事業を行うことで、子育て世代や今まで図書館に来ていなかった人を呼ぶことが出来るのではないのでしょうか。大和市の施設は素晴らしいですが、今後、大きな経費が掛かるでしょう。二宮町は今の施設や機能をどう使うか考えていきたいです。

(町長)

武蔵野市の施設を見る機会がありました。施設、設備など興味深く見学しました。改めて感じましたのは、図書館は本を借りるだけでなく、本を見ながら活動できる空間、場所の設定づくりが大切だということです。先進施設を参考にしてヒントを得ていきたいと考えています。

(山内委員)

昔の図書館にもよく通いました。コンパクトでしたが、様々な資料があり興味深い図書館でした。今の図書館も複合館として活用しています。町長がお話されていた、図書館利用者の裾野を広げる、という点についてですが、そのためには資料の充実が必要だと思いますが、話題の本や新しい本は、どのぐらいの期間で入っていますか。

(町長)

本日は、オブザーバーとして、図書館長が出席しています。図書館長から、図書の購入や図書館の取組みの説明をいたします。

(図書館長)

図書館では、新しい資料は、司書による会議と、利用者からのリクエスト、購入希望で加えています。購入の場合では2週間から1か月程度で提供していますが、専門的な物など資料によっては1か月以上を要するものもあります。また、二宮町の図書館で購入が難しい、利用が見込まれ難い資料については、他の図書館から借りて提供しています。

あわせて、図書館の取組みを紹介させていただきます。まずは、子育て支援の一環として事業展開を進めています。図書館内の利用に関する部分では、育児書の一部を1階のこどものほんコーナーに置くなど、親子利用の対応を始めました。また、こどものほんコーナーへの相談員配置についても、昨年度は夏休み中心に配置したのを見直し、月4回程度週末やおはなし会のある日を中心に配置して多くの利用者に対応できるようにしました。また、来館されてない方向けに作成した図書館だよりを発行し回覧することで、図書館のPRを図りました。

中高生向けには、図書館2階のティーンズコーナーのリニューアルを進めています。昨年度は、中学校図書委員の生徒に意見を聞く機会を設け、図書等の充

実を図りました。今年度は、さらに二宮高校の生徒の声も取入れたいと考えています。中高生の声を取入れて、充実を図ってまいります。

(町長)

中学生の声が聞こえてよかったですと思います。高校生の意見についても前向きに検討してください。

(岡野委員)

先日、学校図書館に勤務している指導員に利用状況を聞くことが出来ました。その話によると、テレビや映画の原作などが読まれているそうです。また、1つの本を見たときに、その周辺の本も読まれていると聞きました。本の置き方、見せ方が大切だと感じました。また、伝記類では、スティーブ・ジョブズなど、いわゆる最近の人物の本が読まれている一方で、過去の人物については、データブック的、資料的な本が読まれているそうです。子ども達に様々な本に出会ってもらうためには、大人が導く通路のようなものを準備する必要があるかもしれません。

(町長)

今年度、一色小学校では図書室に空調設備を導入します。他の学校図書室にも整備を進めようと考えていますが、これも一つのきっかけにして学校図書館の利用を増やし、さらにラディアンの図書館利用に繋がりたいと思います。

(山内委員)

子ども達が、いわゆる名作や古典を手に取り、読むまでの道筋を作ることが必要だと感じています。豊かな人生の糧となる本に興味を引くような仕組み、指導が出来たら良いと思います。

ところで、昨年度からこの会議のテーマになっているコミュニティ・スクールの観点から、ラディアンの図書館に来られない方々のために、学校図書館を充実させることについては如何でしょうか。

(町長)

学校図書館は、第一に児童生徒のためにあります。一方で、コミュニティ・スクール、地域に開かれた学校、と考えていきますと、図書館の分館というわけではありませんが、各学校の図書館が地域の拠点の一つとしての機能を持てるかもしれません。

(原委員)

学校図書館では、多くの子ども達の様々なニーズがあるので、どうしても読まれなくなる本もあります。そんな中で他校の蔵書を活かせるよう、蔵書情報をお互いに確認できると良いのですが、蔵書情報や物流のネットワーク化にはどうしても費用が掛かると思います。今ある財産をどう工夫し、充実させていくかが課題となりますね。

(図書館長)

図書館の蔵書情報はホームページで公開しています。また、学校への貸出については、団体貸出という区分で、1校あたり最大300冊貸し出せるようにし、活

用していただいています。

(町長)

学校図書館については今後の課題として研究していきたいと思います。今日のテーマのもう一つとして取上げました読書指導のことです。学校での取組みの状況を、原委員、お話しいただけますか。

(原委員)

まずは、朝の読書の時間ですが、この時間は、本に親しむだけでなく、読書の時間を持つことが子どもの落ち着きにつながっています。子どもの読書は、まず、読ませる、から始めて、それが、読む、に繋がります。読書指導、という点では、名作や古典についても国語科などの授業を通じて紹介すると子ども達に効果的です。学校でも、町図書館でも、子ども達、そして親子で本に触れる機会を作ると良いと思います。

(教育長)

教育委員会内では、今年、一色小学校の図書室や他の学校の音楽室に空調設備を導入し、来年度は、今年度を補う形での導入を、と考えています。町長のお話にもありましたが、これを機会に学校図書館の活用を図り、町図書館の利用拡大に繋げていきたいと考えていますが、原委員のお話にあった通り、子どもの自主性だけに委ねるには限界があります。国語科だけでなく、他の教科でも図書館活用を働き掛けたいと考えています。

子ども達の図書館の使い方は、文芸書などの本を読むというより、いわゆる調べ学習や自由研究での活用が多いのが実態です。学校においては、教員が授業で図書館を使うことで、子どもが本に触れる機会を増やしたいと考えています。図書館の使い方は色々ありますので、教育委員会としても働きかけを進めたいと思います。

(吉田委員)

昨年度、二宮中学校の学校図書館を見る機会がありました。日差しの明るい、落ち着いた良い空間でした。本を読むだけでなく、いわゆる、居場所として機能も期待できると感じました。

(町長)

図書館の使い方などは学校でも取組んでいると思いますが、いわゆる、居場所、空間としての図書館も大切だと感じています。学校図書館を常に開けておくには、PTAや地域の協力も必要になりますので、意見をいただきながら進めたいと思います。図書館の可能性は今後も広がっていきますので、先進事例等を研究していきたいと思います。

(教育長)

このテーマの冒頭で吉田委員から大和市施設のお話がありましたが、実際にその施設を見られて、二宮町の図書館に導入できるようなアイデアはありますか。

(吉田委員)

アイデアと言えるかはわかりませんが、一つの案として。ラディアンでは、常時多くの方が利用されています。子ども達も、時間帯によって様々な世代の子どもが来館しています。今ラディアンや図書館に来ている子ども達の意見や情報を吸い上げてみてはいかがでしょうか。また、雑誌コーナーにいる人にも意見を聞いたらいかがでしょうか。

(町長)

図書館、という、イメージ、形もあると思いますが、色々な可能性を考えていく必要がありますね。

(岡野委員)

図書館に来ていただく方、利用される方を増やすアイデアですが、図書館の通路側を活かして、ディスプレイ等を配置して、本の紹介を試みるのも良いかと思えます。駅などにある最近の自動販売機は、前に立った方の性別や年齢を内蔵のコンピュータで判断し、おすすめ商品を表示することもできます。そこまでいなくても、時間帯に応じて世代別のおすすめ本を出していけば、色々な方に関心を持っていただけたらと思います。

(原委員)

子ども達の図書館利用を促す方法としては、図書館と学校がタイアップして、例えば書評や本の帯コンクールなどの事業や取組みを実施して、教員が児童生徒を図書館に連れて行く機会を設けると、子ども達の興味が向いていくと思えます。

(町長)

色々なアイデア、ありがとうございます。さて、最後になりますが、図書館関係で最近ニュースになっている、図書館資料の切り抜き被害への対応について、状況と対応を説明します。

(図書館長)

現在、当町では、被害はありません。報道では学校の記念誌等が狙われているようですので、そうした関係の資料は書庫に収納して、利用の際には申し込んでいただくようにしています。

(町長)

では、共通テーマということで、最近のコミュニティ・スクールの状況を教育長からお願いします。

(教育長)

コミュニティ・スクールについては、この春に、関連法の改正がありました。従来から地域や保護者からの意見を聞く仕組みはありましたが、改正により、コミュニティ・スクールは、そうした方々に学校運営に協力していただく仕組みであるということが改めて定義されました。

さて、一色小学校においては、準備委員会を立ち上げ、放課後子ども教室や登下校の見守り活動、敷地内の環境整備、授業への協力者の募集など、学校活動の

様々な場面での人材を集めようとしていますが、地域での対応には限界があるようです。従来から協力していただいている方と連携しながら、引き続き協力を募っていきたいと考えていますが、どのように地域や保護者からの支援協力をいただくのが課題です。

(原委員)

一色小学校については、地域との相互理解、制度PRが不足していると感じました。協力については、子どもの育ちのためという思いがある一方で、地域の限界も感じました。保護者の皆さんが、地域の方の取組みを知ることで、将来の協力者につながりますので、将来を見据えた理念の共有化が必要と改めて感じました。

(町長)

担い手、協力いただける方がいないと続けられません。こうした取組みは、地域発の動きがないと厳しいと感じています。他の自治体では、行事ごとにボランティアを募るといった手法を用いているようです。地域側の目線からを取入れるなどの柔軟な発想と取組みのPR、両方を進めていく必要があります。

(原委員)

町長には、折にふれて、様々な場面で、PRや呼びかけをお願いします。

(町長)

町民の皆さんの自発的な思いを掘り起こしたいと思います。

(原委員)

地域のニーズと学校のニーズは異なると思います。コミュニティ・スクールを進めていくには、地域と学校で子どもを育てる、という基本理念をしっかりと持って取り組んでいく必要があります。

(町長)

学校側には、取組みについての負担増の心配もあると思いますので、その払拭も進めていきます。

(山内委員)

地域では、コミュニティ・スクールの取組みを誤解されている方や、課題意識を感じている方もいられました。これは越えねばいけない壁と感じました。誤解やぎくしゃく感を解消していくには、行政・学校・地域とのパイプ役、コーディネーター役が必要だと思います。

(岡野)

この取組みは、子ども達のキャリア教育に繋がると思います。また、郷土愛も一つのテーマとなりますので、そういう意味でも、コミュニティ・スクールへの理解を進めていく必要があります。文字で伝えるだけでなく、声で伝えていく必要があると思います。ぎくしゃく感の解消は、部会レベルだけでなく、一つ上で議論していく必要がありますね。

(町長)

皆さんの御意見をふまえて、解消に取り組んでいきます。

(教育長)

一色地区再生協議会の各部会のうち、特に教育や福祉の部会については継続していただけるよう引き続き地域に働きかけをお願いしたいと思うのですが、政策担当参事、いかがでしょうか。

(政策担当参事)

部会の継続については地域の事情もあるかと思いますが、町としても働きかけて参ります。協議会においても、認識を共有していく必要を感じています。今年度は、学校施設の活用に力点が置かれていますが、今後はどのように展開していくか考えていく必要があります。

(町長)

施設活用だけでなく、取組みが子ども達の育ちにどう繋がるかをしっかりと地域にも伝えていきたいと思っています。

(政策担当参事)

地域の方も、学校やPTAへの遠慮もあるようなので、会話を重ねていきたいと思っています。

(町長)

まだ少し時間があります。他にありますか。

(原委員)

先日ははぐくみ塾の内容をフィードバックするために、各学校に情報提供を進めています。あわせて、学校現場で出来ることを進めるよう促しています。

(町長)

はぐくみ塾も今年度も色々と取り組んでいただいていますね。今年度は教育研究所の事業という位置付けですが、将来的には生涯学習の取り組みの一環として進めていきたいと思っています。

(町長)

では次第の最後です。その他事務局から何かありますか。

— その他について、事務局説明（次回日程） —

(町長)

では、本日本日予定していた協議・調整事項はすべて終了いたしました。

次回は、説明のありましたとおり、平成29年8月18日（金）13時30分からとなります。次回もよろしく願いいたします。

それでは、これをもちまして、平成29年度第1回二宮町総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。